

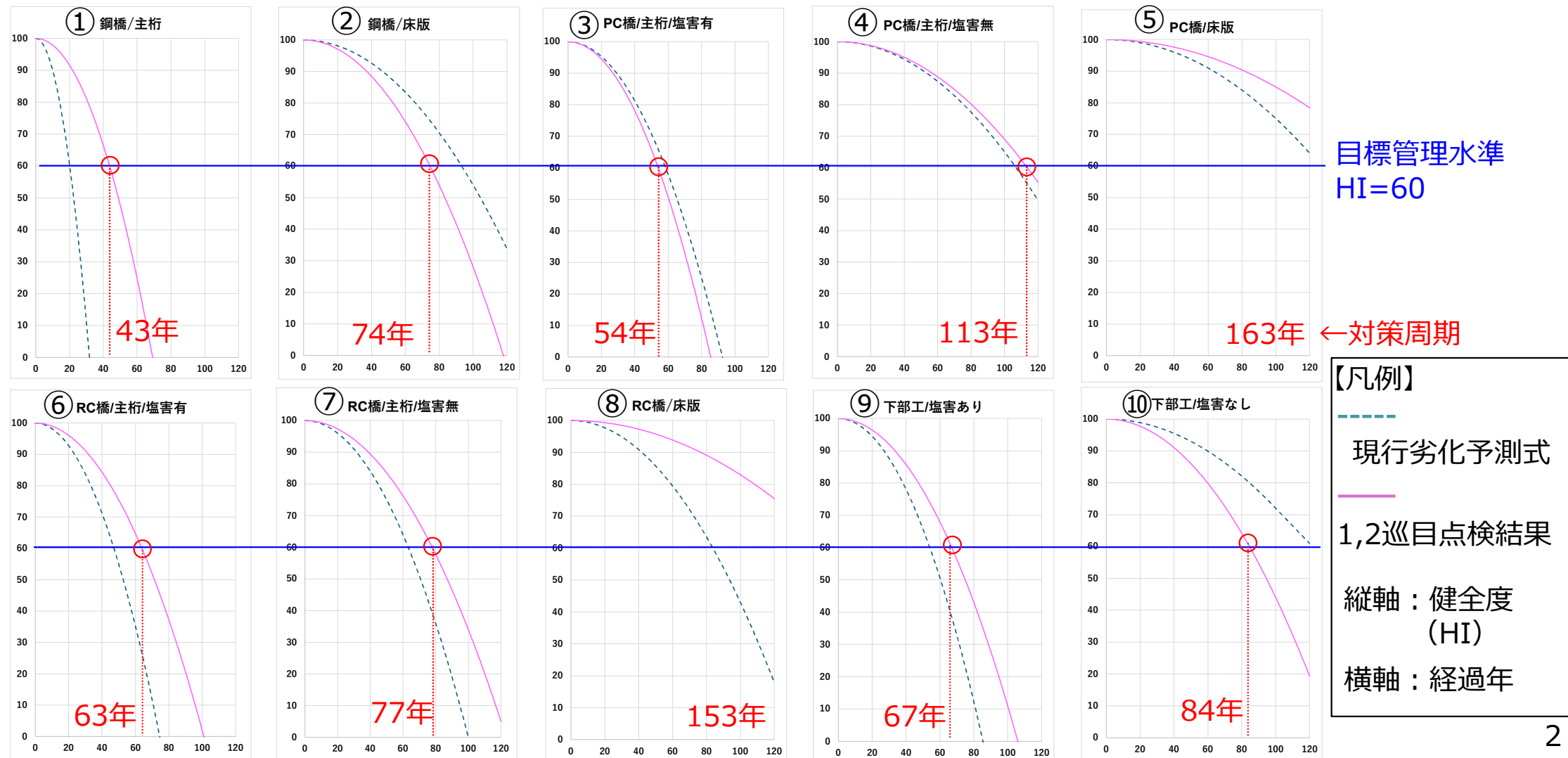
静岡県社会インフラ長寿命化計画
(橋梁及び大型構造物) 改定委員会
1. 第2回委員会の振り返り 【橋梁】

1.第2回委員会の振り返り

現行計画の評価

HIに基づく劣化予測

- 目標管理水準に達するまでの期間 **(対策周期)** が、現行計画より長い部材が多い。
- ⑤PC橋/床版、⑧RC橋/床版は、対策周期が耐用年数（120年）を超えているが、実際には補修を行っているため、実態と合わない。

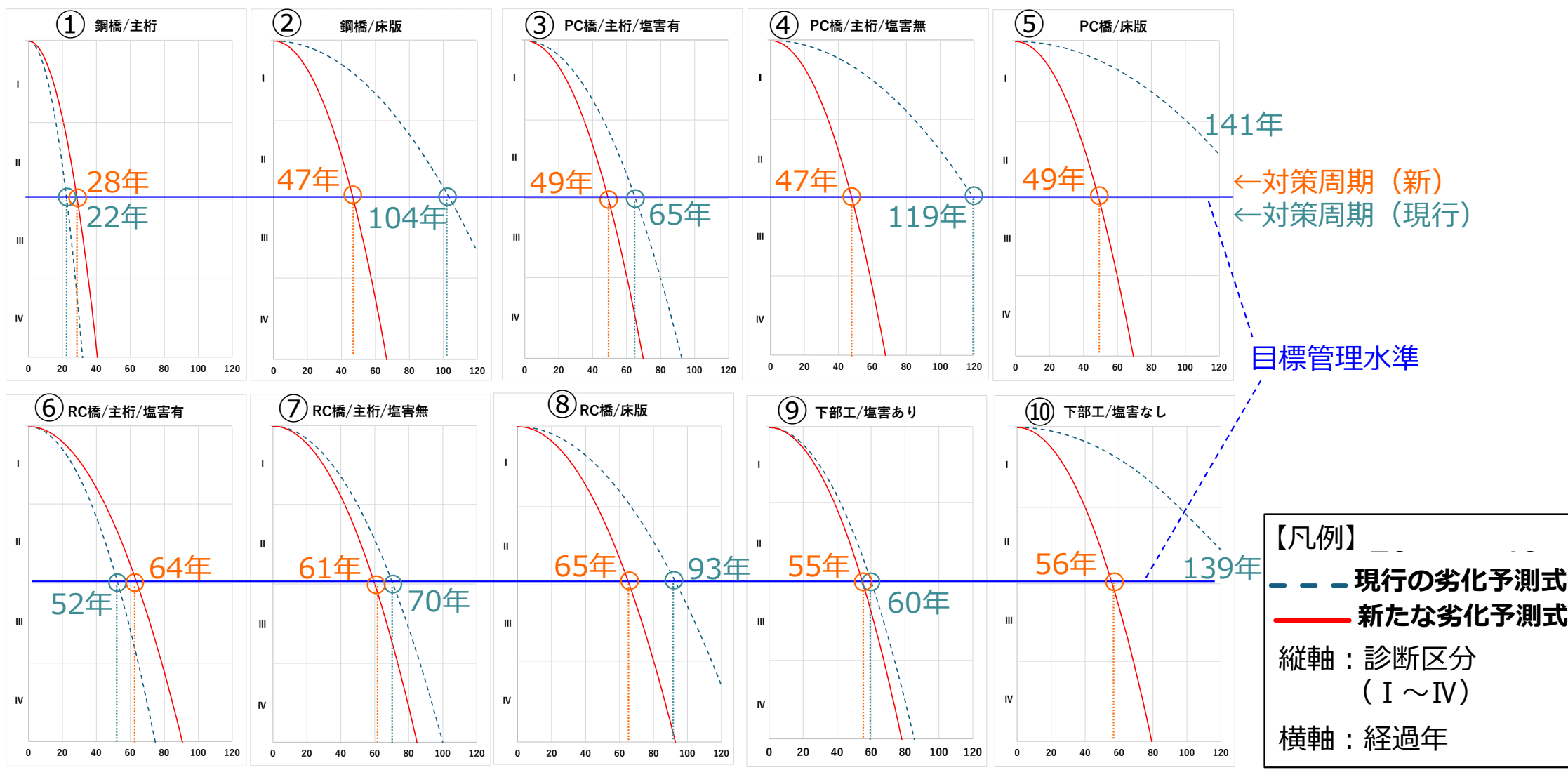


1. 第2回委員会の振り返り

現行計画の評価

健全性の診断区分に基づく劣化予測

・健全性の診断区分（I～IV）を活用した劣化予測を行った結果、現行計画より対策周期が短くなる部材が多くなり、対策周期が耐用年数（120年）を超過する部材もなくなった。



分析結果

- ・ Ⅲ判定への遷移の原因は、桁端部や床版張り出し部からの漏水など水かかりによる劣化がほとんどである。
- ・ 一部に再劣化が見られる。（主に水が原因）
- ・ 一部に所見のばらつきが見られる。



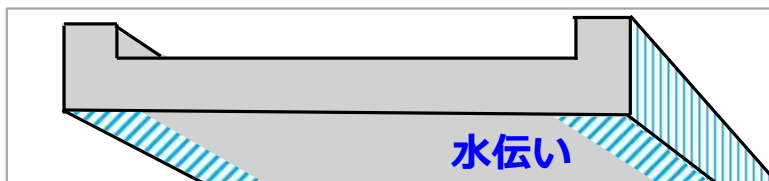
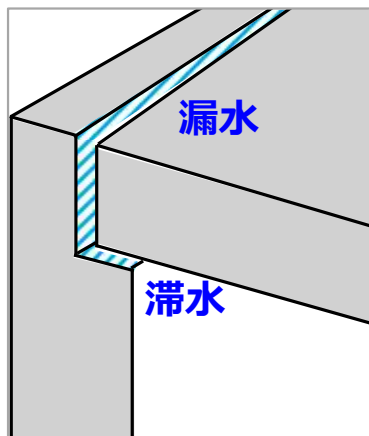
考 察

- ・ 予防保全の深化では、漏水対策を確実に行う仕組み化が重要と考える。
- ・ 点検技術力（点検員の診断）の向上を図る必要がある。

手法1

止水対策の徹底

- ・再劣化の原因である、漏水、滞水、水伝いを抑制する。
- ・具体的な対策を周知・徹底することで、予防保全型管理の深化を図る。



【具体策】

伸縮装置の定期交換

地覆の隙間止水定期交換

伸縮装置端部立上げ材



手法2

再劣化防止の知見の周知（蓄積）

【具体策】

- ✓ 橋梁補修マニュアル・橋梁点検マニュアルの改定
(点検時の対策、沓座モルタルの対策、判定事例集の追記 等)
- ✓ 施工時の留意点の整理・周知 (工事発注図書への追記 等)
- ✓ 土木技術職員研修による周知
- ✓ ばらつきの防止の徹底 (設計コンサル・土木事務所・県庁事業課で三者協議)
- ✓ 再劣化情報の蓄積 (プラットフォームの構築)

1.第2回委員会の振り返り

本日の審議内容

| 項目 | 内容 |
|---------------|---|
| 1 劣化予測の検証 | 【本日審議：御意見への対応】 新たな劣化予測の妥当性を検証する |
| 2 点検（修繕）結果の考察 | 【本日審議：御意見への対応】 耐候性鋼材の考察を行う |
| 3 再劣化の抑制 | 【本日審議：御意見への対応】 流末処理・滞水対策について検討する 再劣化の対策の良否について分析する |
| 4 新技術・新材料の活用 | 【本日審議：新規】 維持補修費のコスト低減や部材の耐久性向上を図るため、新技術・新材料の導入を検討する |
| 5 対策優先度の設定 | 【本日審議：新規】 目標管理水準を遵守するため、膨大にあるⅡ判定の橋梁に対して、対策優先度を設定する。 |